



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ



- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
- ◆会 長 / 掛川 興太郎 ◆副 会 長 / 小池 平一郎
- ◆幹 事 / 矢島 栄一 ◆ガバ広報・情報委員長 / 中河 邦忠

2016~2017 年度

国際ロータリーのテーマ

NO. 1333 平成28年9月6日

◆点鐘	掛川興太郎 会長
◆SAA	橋詰 希望 委員長
◆ソング	君が代・誕生日の歌

◆誕生祝

矢島 英夫会員

◆結婚祝

矢島 英夫会員 泰子夫人
 前田 博志会員 寿美子夫人
 工藤 泰一会員 和子夫人

【会長挨拶】 掛川興太郎 会長

皆さん、こんにちは。

今日は、皆さんにうれしいお知らせがあります。当クラブのチャーターメンバーでもありました新井粒太会員が再入会されることになりました。皆さん、拍手で歓迎したいと思います。

先日の日曜日、小諸八幡宮の八朔相撲に小池副会長と一緒に招待されて参加させて頂きました。一昔前は、各地のお宮で子供相撲が行われておりましたが、今では、この地方では、八朔相撲だけになってしまいました。八朔相撲は1691年(元禄4年)、時の小諸城主であった石川能登守の命により、奉納相撲として始められたとされており、由緒ある伝統行事として受け継がれてまいりました。陰暦の八月朔日(1日)に行はれていたことから「八朔」の名が付き平成8年に小諸市指定重要無形文化財に指定されております。江戸時代の名力士雷電為衛門が1783年に八朔相撲で取り組みをしたとの記述が残っているそうです。最大の見どころは、こども力士の土俵入り、たくさんの小学生力士達が、二重の俵、「蛇の目の辻」と呼ぶそうですが、土俵に上がり立派な化粧回しを締め、「よいやさ」、「こらなない」などと独特の掛け声で四股を踏んだり、両手を挙げ、胸を叩くなどの所作を披露しておりました。子供達

には、相撲を通じて日本の伝統文化や勝負の楽しさを感じ、心身共に成長して欲しいと思います。昔の様に相撲をして遊ぶ子供たちが少なくなった現代、参加している小学生は、坂の上と野岸の二校の生徒だけ、市内の他の小学校に働きかけるなどもっと広域に働きかけることが必要と感じました。八朔相撲は地域住民、八幡宮の催事関係者だけでなく、皆で守っていかなくてはとの感を強くしました。ロータリークラブの地域補助金を使って、何とか援助できればとの思いを感じて帰ってまいりました。

【幹事報告】 矢島 栄一 幹事

1. 米山梅吉記念館より館報
2. ロータリーの友事務所より「ロータリーの友」英語版発行について

年 1 回 11 月発行 1 部 500 円

3. 例会変更

丸子RC	9月22日(木)	定刻受付なし
	9月29日(木)	定刻受付あり
上田西RC	9月22日(木)	定刻受付なし
	10月13日(木)	定刻受付あり
	10月27日(木)	定刻受付あり
	11月3日(木)	定刻受付なし

4. 週報

上田東、上田西RC

・来週9月13日(火)ガバナー公式訪問です。ネクタイ着用をお願い致します。

【本日の配布物】

週報 1332 号、ガバナー月信 9 月号、ロータリーの友 9 月号

◆出席報告 湯本 敏晴 委員

会員数22名 出席義務者21名 免除者1名
 本日 出席 15名
 事前 MU 1名 71. 43%
 前々回(8/23) MU 1名 68. 42%

◆委員会報告

会員増強委員会 渡辺 文夫委員長

・9月13日(火)午後2:30より午後4:00まで会員増強の打合せを行いますので会員増強委員会の皆さんはロータリー事務所にお集まりをお願い致します。

◆ラッキー賞

NO. 2 矢島 栄一君

◆ニコBOX 工藤 泰一 委員

矢島 栄一君	久々にラッキー賞が当たりました。当たりを引いてくださった新井さん有難うございました。
小池平一郎君	新井さん再入会ご歓迎申し上げます。
橋詰 希望君	新井さん再入会ご歓迎申し上げます。これからも宜しくお願い致します。
小山 盛夫君	粒太さん、再入会嬉しいかぎりです。お体に気を付けて宜しくお付き合いをお願いします。

中河 邦忠君	新井さん再入会、有難うございます。
依田 晋一君	新井さん再入会、有難うございます。私が会長の時幹事をして頂きました。元氣でご活躍の程お祈りします。
工藤 泰一君	結婚祝、有難うございました。
掛川興太郎君	新井さん再入会、宜しくお願い致します。
矢島 英夫君	誕生祝、結婚祝有難うございました。

◆【本日のプログラム】「ロータリーの友月間によせて」 クラブ広報・情報委員会 中河 邦忠委員長



9月13日は「ロータリーの友月間」です『ロータリーの友』の変遷を紹介します。
創刊まで

1952(昭和27)年4月25日、大阪市で開かれた地区大会では、次年度(1952-53年度)から日本が2つの地区に分割されることが決定していました。それまで一つの地区としてまとまっていた日本のロータリアンが2地区に分かれるわけですから、寂しさや期待の入り

交じた雰囲気は当時の人たちにはあったようです。そのようなロータリアンの気持ちから、2地区になってからも連絡を緊密にするため、共通の機関誌の創刊が企画されました。

第1回の準備会は大阪で開かれました。大阪ロータリークラブの星野行則氏がガバナーであったこともあり、同クラブの露口四郎氏が幹事役となって開催されました。東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブ代表者が出席しました。共通の雑誌ということでしたが、東と西では雑誌に対するイメージがかなり違い違っていました。西の星野氏は謄写版刷りの簡単なものでよいから早くという意見でしたし、東では謄写版では手軽すぎて恒久性がない、はじめからある程度きちんとしたものをも望むという考えでした。最初の会合では具体案の作成までには至りませんでした。

第2回の準備会が岐阜ロータリークラブの遠藤健三氏の世話で、1952年7月、岐阜・長良川畔の大竹旅館で開かれました。この時は、第1回の準備会よりも具体的になり、議論も沸騰したようです。ここで下記の内容が決定しました。

1. 編集委員は合議制とする。
2. 東京にて発行する。
3. 定価50円とするが、広告を取って100円の内容のある雑誌とする。
4. 名称は『ロータリーの友』とする。
5. 横書きとする(横書き、縦書きで意見が分かれ、各クラブの意向をうかがうため一般投票を行ったところ、2対1の割合で横書きが採用されることになった)。
6. 創刊は1953年1月号とする。

『ロータリーの友』の名前

雑誌名称は、第2回準備会で、投票によって遠藤健三氏提案の『ロータリーの友』に決定しました。

この名称に対し、柏原孫左衛門氏がおつまみの「ビールの友」からヒントを得たのではと発言、爆笑となったそうですが、遠藤氏自身、後日談で『主婦の友』からヒントを得たと述べています。

広告は創刊号から

定価に関して東西が対立し、遠藤氏が仲裁案として50円案を出しました。雑誌の体裁としては東の活版案になったわけですが、活版で作成すると原価が93円75銭かかり、予算が不足することは明らかでした。遠藤氏は仲裁案を出すときから広告を取って補てんしなければならぬと考えていたようです。定価100円は1962年12月号まで続き、その後1974年12月号まで定価110円が続きました。しかし、印刷代や諸物価の値上がりにより、1975年1月号から定価200円になり現在に至っています。現在でも『友』にとって広告は大事な収入源で、1975年以来の200円を維持していくためにも、この広告収入が一役買っています。

『友』の変遷

- 1953年 1月 創刊 発行部数3,300部 横組みでスタート。その後、俳壇・歌壇など、一部の記事を縦組みで入れることに
- 1972年 1月号 従来の形式を一変し、縦組みと横組みに分けた現在の形式に変更
- 1977年 ロータリークラブ定款第10条(現14条)の改正に伴い、国際ロータリー(RI)に公式地域雑誌の規定が設けられる
- 1980年 7月号 RI公式地域雑誌(現、ロータリー地域雑誌)の認定を受ける
- 1986年 3月号 モノクロから、「ロータリー・アット・ワーク」(横組み写真ページ)トップの取材ページをカラーに。縦組みと横組みの巻頭各8ページを2色刷りに
- 1986年12月号 「ロータリー・アット・ワーク」投稿ページをカラーにし、カラーページは8ページに
- 1988年11月号 「ガバナーのページ」を2色刷りに
- 1989年 1月号 「ガバナー座談会」(4~6ページ)も2色刷りに
- 1990年 7月号 「目次」を横組み 2ページ、縦組み1ページと従来の3倍のページ数に増やし、文字を大きくする
- 1991年 7月号 光線の反射をおさえるマット調の用紙に変更
- 1993年 1月号 記事を従来の活版印刷から写植に変更
- 1994年 3月号 カラーページを8~16ページとし、「ロータリー・アット・ワーク」のすべての写真をカラーに。
1994-95年度分から「地区大会略報」「インターアクト・ローターアクト・交換学生」もカラーに
- 2002年 7月号 創刊50年を迎えるに当たり、コンピューター編集に切り替え、ロータリーの友事務所内で原稿整理から段組まで一切の作業ができるようになる。読みやすさに配慮して一般の雑誌より少し大きくて太い文字を使用。投稿欄など内容も一部変更。B5判をA4変型判(縦280mm×横210mm)に変更、製本方法も無線綴じから中綴じに変更
- 2003年 1月 創刊50年、新たな一步を踏み出す
- 2003年 7月号 すべてのページを4色印刷(カラー印刷)にして、カラー写真の使用を増やし、親しみやすい工夫をする『ロータリーの友』のホームページwww.rotary-no-tomo.jp を開設。ウェブの特性を生かして、最新の情報をいち早く届けることができるようになる
- 2007年 1月号 従来より白い用紙に変更して、カラー写真がより鮮やかに、年齢の高い会員の方のためにコントラストをつけて文字が読みやすいように工夫
- 2007年 3月 『ロータリーの友』のホームページの名称を『ロータリージャパン』に改称、URLもwww.rotary.or.jp に変更し、会員への情報提供だけでなく、広報の役割を果たせるようになる
- 2013年 1月 創刊60年
- 2013年 4月 RI規定審議会で、ロータリー地域雑誌について、会員は印刷媒体と電子媒体のいずれかを選択して購読することが決定
- 2013年 8月 RIから新しい公式ロゴならびにビジュアルアイデンティティなどに関する指針が発表され、ロータリー地

域雑誌もそれに沿って編集するよう要請を受ける

2013年 9月号 一部RIの指針に沿ったデザインを取り入れる

2014年 1月号 電子版の発行をスタート www.rotary-no-tomo.jp

2014年 7月号 本格的にRIの新しい指針に沿ったデザインに変更

2016年 7月号 A4変型判をA4判(縦297mm ×横210mm)に変更

ホームページ『ロータリージャパン』をホームページ『ロータリーの友』www.rotary-no-tomo.jpに統合し、リニューアル



『友』1972年1月号



2002年7月号



2013年1月号

表紙について

年度初めの7月号は、『The Rotarian』と同じく、新年度のRI会長の写真を使用することがロータリー地域雑誌としての要件とされています。

8~6月号は、一般社団法人ロータリーの友事務所理事会で合議の上、決定しています。2016-17年度は、公共イメージに資するようなロータリーの活動写真が表紙を飾ります。

(以上の資料はロータリーの友手引書より、引用しました。)

【新入会員】



氏 名: 新井 粒太会員
現 住 所: 小諸市加増719-5
企 業 名: 新井木材(株)
職業分類: 木材卸

次週のプログラム: 9月13日 「ガバナー公式訪問」
国際ロータリー第2600地区ガバナー 原 拓男様
次々週のプログラム: 9月20日 「卓話」